

CentreCOM® 8216XL2/SMSC リリースノート

この度は、CentreCOM 8216XL2/SMSCをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.3.1J

2 本バージョンでの制限事項

2.1 RMON 機能について

 **参照**「オペレーションマニュアル」2-16～2-17 ページ

RMON alarm, event は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

2.2 マルチキャストアドレスの追加 / 削除について

 **参照**「オペレーションマニュアル」2-120～2-123 ページ

[MAC Address Table] メニューの [Multicast address] において、[Add MAC address]、および [Delete MAC address] オプションを使用したマルチキャストアドレスの追加、および削除は現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

2.3 Xmodem ダウンロード機能について

 **参照**「オペレーションマニュアル」2-22～2-23 ページ

[Administration] メニューの [XModem software update to this system] を実行後、ソフトウェアのダウンロードをやむをえず中断する場合は、電源ケーブルを接続しなおしてください。

2.4 設定変更時のご注意

システムの設定変更(ミラーリング機能設定を除く)を行った後は、[Main Menu] -> [Administration] とすすみ、[Reset and restart the system] を実行し、システムをリセットしてください。

2.5 スパニングツリー機能について

IGMP スヌーピングが動作している環境で、スパニングツリー機能を使用することはできません。IGMP スヌーピング機能とスパニングツリー機能は併用しないでください。

3 マニュアルの補足・誤記訂正

3.1 本製品の特長について

 「ハードウェア設置マニュアル」 1-3 ページ

本製品の特長として「HOL ブロッキング防止機能をサポート」を追加します。

3.2 100BASE-FX インターフェースのケーブル仕様について

 「ハードウェア設置マニュアル」 3-7 ページ

適用ファイバーの注釈(※印)に「ITU-T G.957 適用ファイバー」と記載していますが、正しくは「ITU-T G.652 適用ファイバー」ですので、訂正してお詫びいたします。

3.3 ポートのMDI/MDI-X 設定について

 「オペレーションマニュアル」 2-9 ページ

オペレーションマニュアル「2 ポート設定」において、メニュー上からポートのMDI/MDI-Xを設定する [Fixed MDI=/Fixed MDI-X] オプションについて記載していますが、このオプションはサポートしていません(メニューにありません)ので、訂正してお詫びいたします。本製品をカスケード接続する場合は、クロスケーブルを使用してください。

また、マニュアル内の本体前面図(オーバーレイ図)が以下の点において実際の製品と異なりますので、ご了承ください。

10BASE-T/100BASE-TX ポート全体の表記

マニュアル内

10BASE-T/100BASE-TX MDI-X (MDI CONFIGURABLE) PORTS

実際の製品

10BASE-T/100BASE-TX PORTS

10BASE-T/100BASE-TX ポート番号の表記

マニュアル内

2, 3, 4 ~ 16

実際の製品

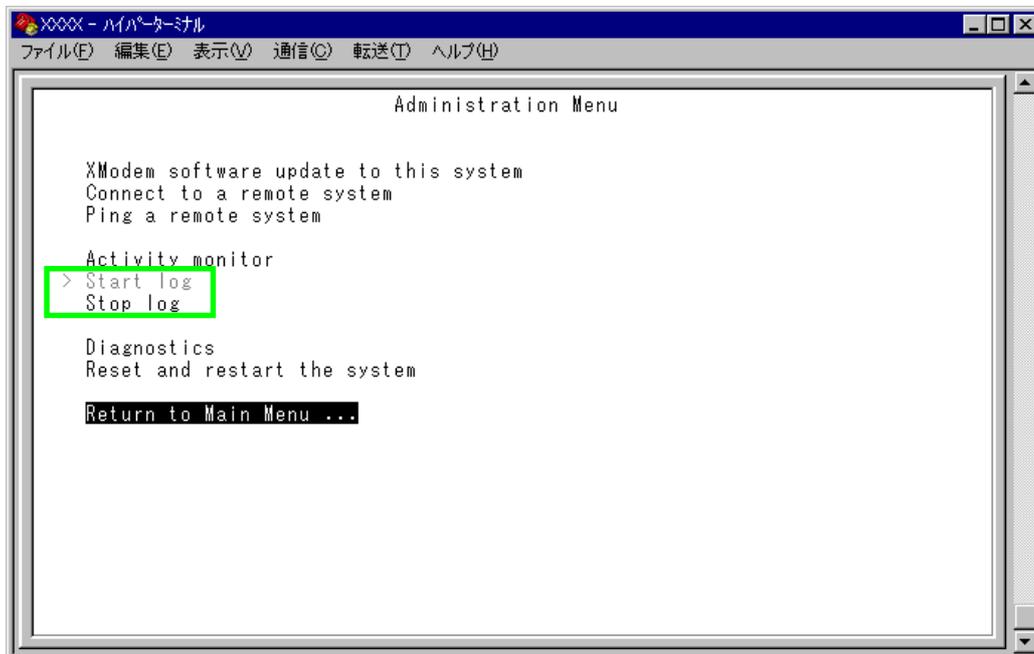
2X, 3X, 4X ~ 16X(ポート番号の後に「X」)

3.4 「ログ」の追加

 参照「オペレーションマニュアル」2-21, 2-26 ページ

ログ機能が追加されたため、以下のとおり補足説明します。

場所：[Main Menu] -> [Administration] -> [Start log/Stop log]



Start log/Stop log

ログの開始または停止の設定を行います。デフォルトはStart logです。Start logを選択すると、システムの動作状況やシステムに対する設定の履歴がRAMに保存されます。

Start log

ログを開始します。

Stop log

ログを停止します。



履歴は約3,000件まで保存されます。最大保存数を超えた場合は、古い履歴から順に削除されます。また、履歴はシステムの電源が入っている間だけ保持されます。

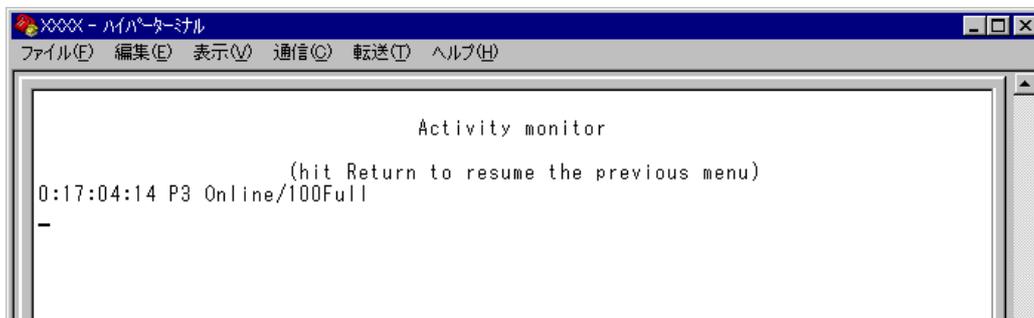
履歴項目の概要は以下のとおりです。

項 目	
ポートのリンク	ポートセキュリティ設定
ポート設定	ターミナル設定
Pingテストの結果	IGMPスヌーピング設定
ログ開始・停止設定	ポートランキング設定
システム内の温度異常	RRPスヌーピング設定
システムのリセット	ポートミラーリング設定
システム名設定	VLAN設定
エージングタイム設定	QoS設定
アクセス制限設定	スパニングツリー設定
ターミナル設定	MACアドレス設定
IPパラメーター設定	TFTPアップロードの結果
Trapパラメーター設定	認証Trapの発行

履歴はアクティブモニターで参照することができます。

表示形式は「D:H:M:S」で、システムの起動時からの経過時間(日:時:分:秒)です。

次の画面はポートのリンク状況が表示されている例です。



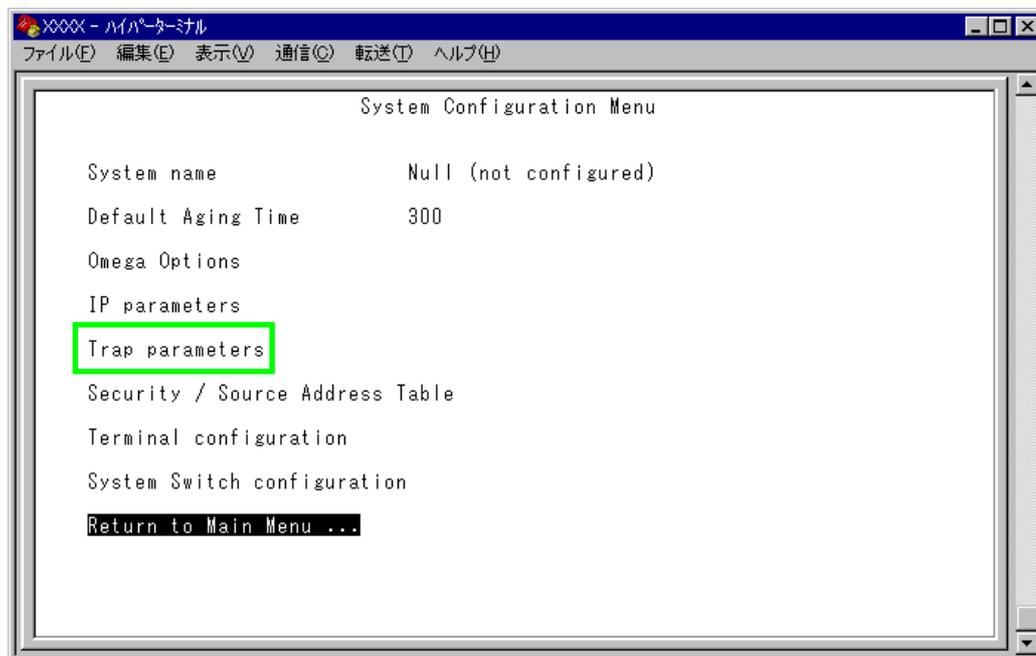
! アクティブモニターで一度参照した履歴を、再度参照(表示)することはできません。

3.5 「Trapパラメーター」の追加

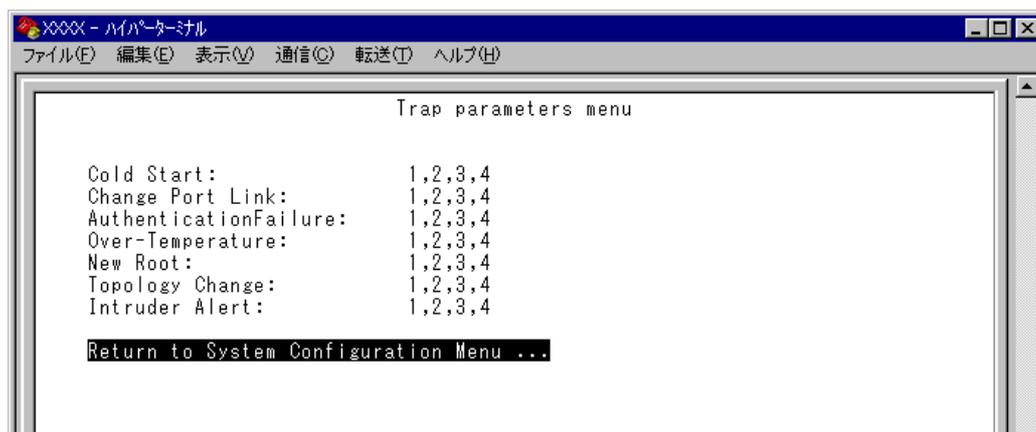
 「オペレーションマニュアル」 2-21, 2-26 ページ

Trap 送信の制御機能が追加されたため、以下のとおり補足説明します。

場所: [Main Menu] -> [System configuration] -> [Trap parameters]



「Trap parameters menu」画面では、各 Trap ごとに送信先の SNMP マネージャーを指定することができます。



各 Trap の入力フィールドに表示されている数字は、IP パラメーター（[System configuration] -> [IP parameters]）の「Manager address」で設定した SNMP マネージャーを意味します（4 つ表示される「Manager address」のうち、一番上を SNMP マネージャー「1」とします）。デフォルトは「1,2,3,4」で、SNMP マネージャー 1～4 のすべてに Trap を送信するよう設定されています。

本製品がサポートする Trap は以下のとおりです。

Trap名	内 容
Cold Start	ハードウェアリセット時に発行
Change Port Link	ポートのリンクアップ・ダウン時に発行
AuthenticationFailure	異なるSNMPコミュニティ名のメッセージ受信時に発行
Over-Temperature	システム内の温度異常検出時に発行
New Root	スパニングツリーにおいて、新しいルートへの切り替わり時に発行
Topology Change	スパニングツリーにおいて、トポロジー変更の発生時に発行
Intruder Alert	ポートセキュリティにおいて、不正パケット受信時に発行

Trap パラメーターの設定

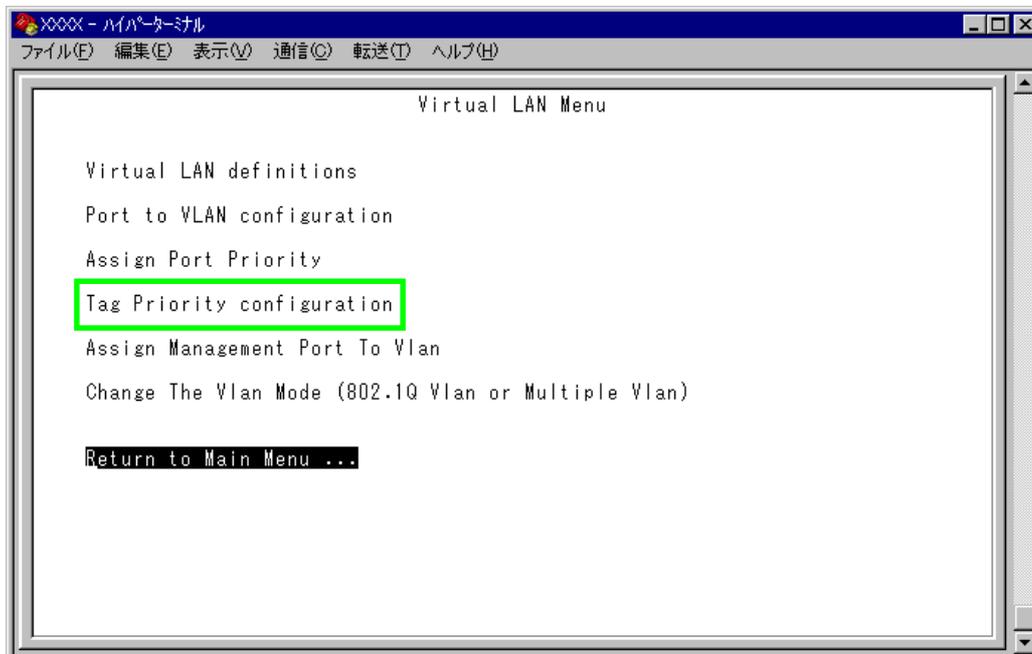
- 1 各オプションの頭文字を入力して、入力フィールドに移動します。
- 2 **[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、送信先の SNMP マネージャーを半角数字で入力し、**[Enter]** キーを押します。複数のマネージャーを指定する場合は、「**1,2,3**」のようにカンマで区切って入力してください。

3.6 QoS メニューの変更

 「オペレーションマニュアル」 2-82 ~ 2-85 ページ

QoS に関するメニューにおいて、以下の変更がありますので補足説明します。

場所： [Main Menu] -> [Virtual LANs/QoS] ->



3.6.1 [Priority Weight configuration] メニューの削除

「オペレーションマニュアル」 2-85 ページで [Priority Weight configuration] メニューの説明がありますが、このメニューは削除されましたので、訂正してお詫びいたします。

High キューと Normal キューの帯域保証の割合は、10:0 (High-10 : Normal-0) 固定となります。

3.6.2 [Tag Priority configuration] メニューの追加



Normal priority | High priority

ポートプライオリティの設定 (High/Normal Port Priority) によってキューが決定されたタグ無しパケットに対して、タグ付きポートからの送信時にプライオリティフィールドに付与する値 (ユーザープライオリティ 0~7) を設定します。

デフォルトは Normal priority が 0、High priority が 7 です。これは受信パケットがタグ無しパケットの場合、Normal キューから送信されるパケットには 0、High キューから送信されるパケットには 7 が付与されるという意味です。

▶ プライオリティ値の設定

- 1 各オプションの頭文字を入力して、入力フィールドに移動します。
- 2 **[Enter]** キーを押して「->」プロンプトを表示します。
- 3 「->」プロンプトに続けて、0~7の半角数字を入力し、**[Enter]** キーを押します。

Mode 1 ~ Mode 9

タグヘッダー内のユーザープライオリティ値から受信パケットのキューを決定する場合に (Use VLAN Tag Priority)、High キューか Normal キューかを分けるプライオリティのしきい値を設定します。デフォルトは Mode 5 (High 7-4 : Normal 3-0) です。

「オペレーションマニュアル」2-83 ページに、Use VLAN Tag Priority オプションの説明として「タグヘッダー内のユーザープライオリティ値は大きい程優先度は高く、0~3は Normal キューとして、4~7は High キューとして処理されます。」とありますが、本オプションにてプライオリティとキュー対応付けが変更できますので、訂正してお詫びいたします。

▶ プライオリティキューの設定

- [M]** を複数回押して、選択する「Mode」へ移動し、**[Enter]** キーを押します。